

令和7年度 習志野市立実籾小学校 学校経営方針

学校教育目標

自然に学ぶ心豊かな実籾っ子

～ 一人ひとりが輝く実籾っ子の育成 ～

ともに学び ちいきに学び 自然に学ぶ

学校の特徴・実態

本校は素直で明るい児童が多く、教員と児童との関係性も大変良好である。また、保護者も本校の学校教育に理解があり、よく協力してくれている。地域からも温かい支援を多く受けており、教育活動の充実につながっている。今年度創立71年目となるが、創立間もない昭和32年より一貫して、学校教育の基本に「理科」を据えて研究を継続してきた。現在は、生活科及び生活単元学習を研究教科に加えて研究を実施し、3年に1回、公開研究会を開催して、さらに研究の充実を図っている。

近年の学力・学習状況調査および校内学力テストの結果からは、国語の「書くこと」に課題があることが浮かび上がってきている。今年度は、特に、字数制限や複数の条件に応じて文章を書くことや自分の考えをまとめてから書くこと等に全学年で継続的に取り組み、「書くこと」の資質・能力向上を図りたい。

めざすべき姿

【めざす学校像】

- ・目標に向かって努力する学校
- ・心育てる美しい環境のある学校
- ・生活にリズムと感動のある学校
- ・地域に開かれ、地域と協力する学校

【めざす児童像】

- ・よく考え、進んで物事のできる子
(自立の心)
- ・豊かな心を持ち、協力できる子
(思いやりの心)
- ・じょうぶな体で、ねばり強くがんばる子
(健全な心)

【めざす教師像】

- ・教えながら学び、子供と共に育つ教師
- ・子供を知り、子供を大切にする教師
- ・明るく健康で、だれからも信頼される教師
- ・教育公務員の責務を理解し専門性を高める教師
- ・組織の一員として自覚を持ち、協働する教師

今年度の学校経営の重点項目

1. 空まで届く「あいさつ」をすべてに響かせる

「あいさつ」の声が当たり前に響く学校を目指して全教職員で取り組むことで、子どもたちに「行動すれば変容できる」ことを実感させる。「あいさつ」がすべての教育活動に影響を与えるものとして特に力を入れて取り組む。このことを保護者や地域の方にも目に見える事実で知ってもらうことによって、ともに歩みを進める姿勢につなげる。今年度は「空まで届くあいさつを」を合言葉に取り組む。

2. 率先垂範 「大人の本気を見せる」

子どもたちは周りの大人の言動をよく見ている。「本気でより良い授業に向けて尽力する姿」「本気で一緒に清掃活動する姿」「本気で遊び、本気で一緒に考えてくれる姿」「本気で心配する姿」「本気で叱ってくれる姿」「本気で教職員が協働する姿」は勿論のこと、服装や言葉遣い、表情、すべてから子どもたちは学び取る。

3. 教育相談の充実 「一人たりとも」

～全教職員で、一人一人に寄り添い、励まし、導く～

「一人一人を大切にする」「それぞれの良さを引き出す」ことを、強く意識していきたい。全教職員で一人一人を受け止め、すべての教育活動で、より良い方向に導くことに根気強く取り組んでいく。

「一人一人を大切にする」ために、まず教職員集団が「認め合い、支え合い、高め合う」チームとして動く。今日は「ありがとう」を何回言ったか、振り返ることを大切にする。

4. 地域・家庭との「連携」

学校からの適切な情報発信が、突破口の一つになると考える。こまめなやりとりが信頼を築く。ホームページ「実籾小ダイアリー」を毎日更新し、協働の意識を高めていきたい。連絡帳や電話連絡は、「体調不良や怪我の連絡」「持ち物の連絡」「トラブル案件」だけではなく日頃から「頑張ったこと」「成長が見られたこと」を伝える手段にする。

この地域の歴史と学校への信頼を大切に、地域への感謝の気持ち協働する姿勢で伝えていくことを何より大切にする。

5. 共通理解・共通実践

どのような組織であっても「共通理解・共通実践」が鍵を握る。そのために「報告・連絡・相談・事後報告」を徹底するとともに、速やかに、情報共有及び軌道修正を行いながら共通実践を重ねていく。特に、安心・安全に関わる内容は、確実に共通理解を行う。

- ・ 毎朝、朝の欠席・遅刻の確認を、確実に確認する。
- ・ 具合が悪くなったり怪我をしたりした場合には、養護教諭・管理職と迅速に情報共有し、家庭への連絡を丁寧及び確実に行う。
- ・ 特に、安全・安心に関わる内容は、学年主任、管理職への「報告・連絡・相談・事後報告」を徹底する。
- ・ 「ミニ・ケース会議」（校長・教頭・教務主任・養護教諭・担当等）を開き、短時間で情報共有を行い、解決につなげる。
- ・ 危機意識、危険回避能力を高め、けがや事故の未然防止を図る。
- ・ 栄養教諭と学級担任が連携し、食育を通して心と身体をともに育む。
- ・ 学習習慣・生活習慣の共通理解を図り、定着に努める。
→ 特に学習規律の定着（姿勢・用具・聞く話す等）あいさつの定着

6. 一時間ごとの授業の充実

45分間の授業をいかに充実させるか、学校における諸課題の解決策の鍵はここにある。学力向上はもちろんのこと、「気付くおもしろさ」「考えるおもしろさ」「考えの異なる相手と議論するおもしろさ」「わからないことに出会った時のおもしろさ」等を味わうことができる授業を目指していく。授業の中でこそ、学級経営を充実させることができる。

- ・ 「子どもたちの声が響く授業」か「教師の声が響く授業」か、を一つの指標とする。
- ・ 子どもは誰に向かって発言しているか、という視点をもつ。
 - 教師の「立ち位置」も重要
 - 子どもの言葉を教師が「復唱」していないか
＝1回で聞かなくてもよい環境を作っていないか
- ・ 友だちの発言に「同じです」だけでよいか。
 - 数値や記号以外で、まったく同じであることはあり得ない
- ・ 「導入」に5分以上かかっていないか。
 - 「導入」よりも「次の授業に見通しをもたせる終わり方」が大事
- ・ 授業の「第一声」で何を言うか、を精選して臨んでいるか。
 - 注意や指示で始めないためには4月の授業規律の指導がポイント
- ・ 教師の指示発問が精選されておらず何度も言い直していないか。
- ・ 始まりの時刻・終わりの時刻が、ルーズになっていないか。

7. 組織で進める特別支援教育

各学年の通常学級に在籍している適切な支援を要する子ども一人一人にも教育的ニーズに対応した指導・支援の充実を図る。特別支援学級担任と通常学級担任の連携を進め、すべての子どもの困り感に寄り添う教育を推進する。保護者にも寄り添う姿勢で、子ども・保護者を適切に導く。

8. 教育環境の整備 「人的環境のユニバーサルデザイン」

～ユニバーサルデザインの視点に立った環境づくりと人的環境のユニバーサルデザイン～

「ユニバーサルデザインの視点に立った環境づくり」について共通理解・共通実践を進めるとともに、「人的環境のユニバーサルデザイン」という視点を加えて取り組みを進める。実態を的確に捉え、適切な声掛けや効果的な指導について共通理解を図りながら進めていく。

9. 自己研鑽に励む教職員集団

教職員がそれぞれの専門性を高めてこそ子どもたちに生きる力を育むことができる。本校に、長年、受け継がれている「自然に学ぶ」という言葉のとおり、「学び続ける」校風、「認め合い、支え合い、高め合う」校風を柱に進める。

研究教科「理科・生活科」の授業開発に力を入れるとともに、研究授業のみならず、日頃から授業を見合うことで授業力向上を図る。

また、「校長室だより」を通してそれぞれの尽力を共有し、「ともに、一歩前へ」歩みを進められるよう働き掛ける。